

パンツで世界中の人を幸せにする
CGアーティスト

サムライ・マサ

Samurai Masa

- ◆《デジタル映像×音楽×パフォーマンス》を融合した
体感型アート作品に挑む CGアーティスト
- ◆「幸福と平和のシンボルとしてのパンツの可能性」を
テーマに追求する パンツアーティスト



【“パンツで世界中の人を幸せにしたい”
“パンツで宇宙まるごと平和にしたい”】



1983年生まれ。東京都出身。
19歳でアニメーション業界に入り、美術助監督、美術監督を経て独立。テレビ版「名探偵コナン」などのアニメーション美術、映画美術、実写映画マットペイント、コンポジットなどを手がける。
その後、現代アートの世界に興味を持ち、様々なデジタルアート作品を試作する中でパンツという永遠のテーマに出会い、パンツアーティストになることを決意。
きっかけは、たまたま描いたパンツが富士山に逆さまに被っている作品が大いに受けたことから、「大人も、子供も、パンツを見るとクスッと笑うのはなぜだろう？」というふとした疑問から、パンツの世界史を研究することになったこと。
すると、パンツから西洋の歴史や日本の近代史の変遷を見ることができたり、パンツに秘められた
メッセージの多様性・普遍性など、パンツのもつ奥深い世界を次々と発見。以来、「幸福と平和のシンボルとしてのパンツの可能性」をテーマとして追求している。

作品名『パンツオーケストラ®』（登録商標第5549813号）

3DCGで作った本物そっくりのパンツ47枚+指揮者のサムライ・マサの48名の楽団員で、パンツオーケストラ「パンツ交響楽団PNT48」を結成。パンツが自身の動きによって、12種類の楽器の動きを表現して演奏するというアニメーション映像をプロジェクターでスクリーンに上映。そのパンツオーケストラに向かって、生身の人間であるサムライ・マサが指揮者として、タクトを振って指揮をとるといふ、《デジタル映像×音楽×パフォーマンス》を融合した現代アート作品。

動物と人間の違うところ、それは、局部を隠しているか、いないか。また、それゆえに「人間」に分類される私たちは、毎日、もがき、悩み、苦しむ。そして、身にまとう衣服の形状・習慣の違い、品質・価格の優劣などにより、人間と人間との間で、格差や争いも生じる。だが、もしも世界中のすべての人間がパンツ一丁になったら、そんな格差や争いはなくなり、苦しむこともなくなるのではないだろうか。オーケストラのかわいいパンツたちは、ヴァイオリンやフルートなどの音色を自らの体で奏でようとするが、パンツはせいぜい、伸びたり縮んだり、フリルをヒラヒラ揺らすことぐらいしかできない。そんな不自由さは、私たち人間の生き様そのものである。だが、そんな微力に見えるパンツたちも、サムライ・マサの指揮に導かれて、それぞれが奏でる音色が積み重なって調和されていくことにより次第にその力を増し、ついには、地球を丸ごと支配するまでの宇宙規模のパワーへと拡大していく……。そう、パンツだってみんながその気になって手をとりあえば、世界中の人をハッピーにすることも、宇宙まるごと平和にすることも、なんだってできるのである。

【ぜひ取材をご検討ください】

・現代アートの楽しみ方、パフォーマンスの実演、即席で指揮者になれる公開レッスンなど。
取材のお問い合わせは、ホワイトナイト（株）久保まで TEL：03-5414-2831